

令和7年7月31日
玉野市教育委員会

令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

1 調査の実施

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査日

令和7年4月17日（木）

(3) 本市の参加状況（国語実施人数）

<県：小学校14,676人 中学校13,922人>

参加学校数	参加人数
小学校13校	小学校6年生 346人
中学校 7校	中学校3年生 310人

2 本市の学力状況 国語・算数・数学の数値は平均正答率(%) 中学校理科は IRT スコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
玉野市	63	53	56	52	45	48.5
岡山県	67	56	57	55	48	50.4
全国	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	50.3

○すべての学年、教科について、県平均、全国平均を下回っている。

○小学校6年生の同一集団の推移（平均値との比較）では、昨年度の県調査と比較し、国語・算数ともに、差が減少傾向となっている。

○中学校3年生の同一集団の推移（平均値との比較）では、昨年度の県調査と比較し、国語・数学ともに、差が若干増加傾向となっている。

3 主な結果内容（学力調査結果の分析）

- ・各校によって、状況は様々ではあるが、市内の大まかな傾向としては、次のとおり。

【△調査の目標値に対して正答率が高い項目 ▼目標値に対して正答率が低い項目】

小学校6年生		
国語	算数	理科
△学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる設問 △自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる設問 ▼目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問 ▼事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる設問	△角の大きさについて理解しているかどうかをみる設問 ▼小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる設問 ▼伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる設問	△電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる設問や乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる設問など、「エネルギー」を柱とする領域 ▼「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる設問など、「粒子」を柱とする領域

中学校3年生		
国語	数学	理科
△事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる設問 △自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる設問 ▼資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる設問 ▼読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる設問	△一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる設問 △相対度数の意味を理解しているかどうかをみる設問 ▼素数の意味を理解しているかをみる設問 ▼目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる設問	△分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる設問 ▼気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる設問

4 主な結果（学習状況調査結果の分析）

- ・学校に行くのは楽しいと思う。（最上位層「当てはまる」）

	小学校6年生	中学校3年生
玉野市	82.9%	84.3%
県	86.5%	86.1%

- ・将来の夢や目標を持っている。（上位2層「もっている・どちらかと言えばもっている」）

	小学校6年生	中学校3年生
玉野市	79%	69.8%
県	83.1%	67.5%

- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
（上位2層「してみたい・どちらかと言えばしてみたい」）

	小学校6年生	中学校3年生
玉野市	82.7%	71.7%
県	81.3%	75.3%

- ・授業は自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていた。
（上位2層「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」）

	小学校6年生	中学校3年生
玉野市	82%	81.4%
県	83.4%	79.3%

- ・授業でPC・タブレットなどの機器をどの程度使用しましたか。（ほぼ毎日）

	小学校6年生	中学校3年生
玉野市	40.1%	76.5%
県	24.5%	29.5%

- ・家庭学習60分以上

	小学校6年生	中学校3年生
玉野市	58.2%	49.9%
県	54%	61.6%

- ・学習におけるICT活用は、県平均を上回り非常に進んでいる。
- ・本市の進めるキャリア教育においては、小中学校において、県平均程度の状況となっているが、小学校において地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童が多く、玉野の魅力再発見発信事業や各校のキャリア教育の成果と考えられる。
- ・家庭学習時間は、小学校は平均以上となっているが、中学校においては少なくなっている。

5 全国調査および県調査を受けての対応

学力状況調査の結果から、学校の「授業改善を中心とした学力向上の対策」が必要であり、学力下位層の児童生徒への支援の充実を図りつつ、学力上位層の児童生徒の力も伸ばすといった、「個別最適な学びの提供」が重要と考える。

そのために、教育委員会では、市全体の課題を分析し、学力向上の方針を作成したうえで、教職員の研修の充実を図るとともに、各校において、自校の課題を分析し、校内研修を核とした授業改善サイクルの構築による授業改善の推進を図っていく。

(1) 学力向上対策の基本方針

- ①今後めざす授業：「全ての児童生徒が力をつける個別最適な学びを実現」
- ②3つの柱：「児童生徒の実態把握」「家庭学習の充実」「授業作り」
⇒3つの柱の一体的な推進による授業改善をめざす。

(2) 3つの柱の考え方・具体的な取組

<児童生徒の状況把握>

- ・児童生徒の学習状況を、毎時間の授業の後半や、内容のまとまりごとなど、できるだけ短いサイクルで確認し、指導内容や指導方法の修正に生かすことができるよう、「指導と評価の一体化」をより強力に進めていく。
- ・教育DXを進め、学習eポータル（まなびポケット）や校務支援ソフト（C4th）のダッシュボードの情報や、各種調査結果、学力学習状況調査や学校のテスト結果等を効果的に活用し、児童生徒の多面的な理解を行った上での授業改善を進めていく。

<家庭学習の充実>

- ・就学援助率の高さ、家庭での本所有率の低さなど、子どもたちの家庭での学習状況を支えていく支援も必要と考える。
- ・一人一台端末の持ち帰りを推奨し、家庭でも本市で導入しているAI型デジタル学習ドリルの有効活用が図られるようにしていく。
- ・学校の授業と家庭学習との接続を意識し、新たな家庭学習のあり方について、学校と協議しながら研究を進めていく。

<授業作り（各教科での育てたい力を明確にし、確実に力をつける授業の実施）>

- ・様々な形態の授業が行われる中で、従来の形にこだわらず、児童生徒一人一人に対応した個別最適な学びを提供していく必要があり、個々の学びの状況を正しく把握し、それぞれの状況に応じた課題の設定や、学びの場・方法の選択、指導支援の提供といった、教師の専門的な見取りや環境構成が重要であると考ええる。
- ・児童生徒が主体的に学ぶために、十分に時間確保された中で、各教科の見方考え方を働かせて考える活動を保証することが大切である。各校の校内研修を充実させ、よりよい授業が行われるように支援を行っていく。